

**平成29年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：平成29年7月27日(木)

場 所：鶴岡市藤島庁舎

大会議室

第1回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 平成29年7月27日(木) 午前10時～12時10分
- 会 場 鶴岡市藤島庁舎2階202・203号会議室
- 出席委員（五十音順） 10名
阿部啓郎、石川均、上野隆一、大井茂、菅原きよ、高山千代子、
田中壽一、富樫達喜、成澤正喜、半澤正昭
- 欠席委員 4名 加藤誠、佐藤耕喜、佐藤二美、前田恵
- オブザーバー 県立庄内農業高等学校校長 青柳晴雄
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 叶野明美、市民福祉課課長 伊原千佳子、
産業建設課課長兼エコタウン室長 小林正雄、
農業委員会参事兼事務局長 三浦市樹
総務企画課課長 菅原司、総務企画課課長補佐 叶野仁、
総務企画課地域振興専門員 齋藤芳、総務企画課専門員 叶野進
産業建設課エコタウン室推進専門員 高橋智也
〈本所〉 企画部地域振興課専門員 前田哲佳
- 傍聴者 なし
- 次 第
 - 1 開 会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 あいさつ
 - 4 会長、副会長の選出について
会長
副会長
 - 5 説 明・協 議
 - (1) 鶴岡市地域振興懇談会設置要綱について
 - (2) 平成29年度藤島地域主要事業について
 - (3) 藤島地域振興計画及び進捗状況について
 - (4) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について
 - (5) その他
 - 6 閉 会

【会議の概要】

1. 開 会（総務企画課長）

2. 委嘱状交付

代表に委嘱状交付 藤島町内会長連絡協議会会長

3. 支所長あいさつ（叶野支所長）

御出席委員の自己紹介

4. 会長・副会長の選出について

会長 上野隆一委員

副会長 富樫達喜委員

5. 説 明・協 議

- (1) 鶴岡市地域振興懇談会設置要綱について
- (2) 平成 29 年度藤島地域主要事業について
- (3) 藤島地域振興計画及び進捗状況について
- (4) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について
- (5) その他

6. 閉 会

4. 上野隆一 会長挨拶

会長を拝命いたしました上野です。会長という役目は、長年、商工会長が、勤めておるといふ経緯がありまして、商工会も実は今年でちょうど一期目が終わりになります。来年改選になりますますが、今年一年はこのまま商工会長を続けますので、会長を引き受けさせて頂きたいというふうに思っております。実は地域懇談会は、先程、支所長からお話があったように、市の総合計画を作る上での意見を様々提案し、かつ総合計画の審議会に持っていくための役割を持っていると思っておりますけれど、ただ文言作りだけでは面白くないと思っております、年に 3 回行われるわけですので、この任期中に何か 1 つぐらい具体的なことをやって、地域の活性化に資することができれば懇談会の明確な役割があるのではないかと考えています。

この会議の前に職員の方々と、会議のテーマについて話し合いました。その中で出てきたのが、一つは「庄農」の事業を何とか地域にもっとアピール、あるいは広く宣伝ができないものか、あるいは事業が出来ないものかということ、具体的な言い方をすれば、「庄農うどん」をどうしようかということが話題になりました。それからもう一つは、皆さんの前にあります、ちょっと萎れていますが「すいおう」です。実は私、「すいおう」という野菜がどういう野菜か、藤島とどういう関わりを持っているかも知りませんでした。ところが、いろいろ健康に効果がある野菜だと伺いました。血糖値など健康に効果のある野菜だったら、使用前と使用后 3 か月、半年ぐらい食べてみて、効果があれば、それを公表してもいいのではないかと考えました。それを私だけではなくて、み

なさん何人かでやってもらって、血糖値と体重と血圧とコレステロールを、半分お祭りみたいな形で、実名で「使用前」、「使用后」で公表すれば、何かしらのインパクトがあるのではないかと考えております。実はこの間、支所長とお会いしたときに、「支所長、私もやるからあなたもやって下さい。」と話をしたら、快く「はい、やりますよ。」ということでしたので。体重から血圧から全部公表するということになるそうですので、ご期待のほどをお願いいたします。ということで、ざっくばらんに今我々が抱えている問題をより具体的に検討していける会になればいいなと考えております。一年間、よろしくをお願いいたします。

4. 富樫達喜 副会長挨拶

先ほども申し上げましたけれども、私、随分長くなりました。前地域審議会の小野木会長からも「この地域のことをしっかり考えろ。」と、随分と言われております。その中にいわゆる庄農の問題があります。だれが考えても、この地域の中で、「庄内農業高等学校」、ほんとに大事な施設であります。ただ問題は、生徒募集しても集まらない、その一点です。これさえ解決出来たら、何も地域で悩むこともすることも無いはずですが。ただ非常に残念なことに、その点においては「その卒業生だろ。」と言われても、自分の息子や孫を無理矢理押し込めることもできなかったというのも事実であります。

なかなか、このことを持ち出されると、「どう思う。」といわれても、「こうだ。」という明快なことを言えないのが、非常に残念であります。従って、地域としては、正直言って、もっとも大事なことでありながら、もっとも発言しにくい、問題なのかなと考えているところです。それから、「すいおう」実は我が家でも栽培をしまして、私も血糖値との戦いでもありますけれども、いま悪戦苦闘しているところであります。そのせいか、我が家でも栽培して、年中食卓に出てきます。おかげさまで、お医者さんの薬が効いているのか、今のところ落ち着いてありがたいです。こういった特色のある作物の栽培というのも非常にいいことなのかなと考えております。私どもよく言われるのは、「農家であれば、今糖尿病で苦しんでいる患者さんがすごく多いから、『米』これを何とか研究機関と一緒に頑張って働きかけてこの開発をしたらどうか。」とよく言われます。血糖値に効果のある米を作ったら、爆発的に売れるだろうなど、そんな思いはするのですけれども、そんなに簡単にはできないということでもあります。しかし、「すいおう」これから地域のなかでしっかり取り組んでみるのは、非常に面白い課題なのかなと考えております。一つ、どうぞよろしくお願い致します。

5. 説 明・協 議

(1) 鶴岡市地域振興懇談会設置要綱について

— 資料1により説明 — 総務企画課 課長補佐

(2) 平成29年度藤島地域主要事業について

- － 資料 2 により説明 － ①総務企画課長 ②市民福祉課長
③産業建設課長 ④農業員会参事（兼）事務局長

○成澤正喜 委員 防災でいえば、4年に一回ある藤島地域全体でやる総合防災訓練あります。その間の3年間は、各地域分担でやるということで取組み、地域がどのような連携で災害に向かっていくかという対応をしております。県防災等の対応も、今あるものの中で、災害にどのように対応するかということで、今年も進めていきたいと思っております。

○高山千代子 委員 歴史公園のイルミネーションですが、冬、楽しめて見れました。初めてのことでしたので良いかなと思えました。藤が咲くまでは、まだ年数もあるし、あそこにある立派な棚を使って年間を通したイルミネーションで夜になると明るく藤島で綺麗なものが見られる、というものが年間通してできないのかと思います。それから、きれいな芝生や花があるのに、訪問する人、遊んでいる人が入っているのを見たことがないのは、あまりきれいだと入って悪いような雰囲気があるので、誘い水のような手だてがあると、藤島に来たついでにお土産を買っていくとか、どこかで食事をしていくことにつなげていくきっかけがほしいと思います。藤が咲くまで待っていても、時間ももったいない気がしますので、それまでの有効活用を考えてほしいと思います。

○上野隆一 会長 イルミネーションの具体的な計画を聞かせて下さい。訪問客というか年間を通しての利用者数のようなものも教えてもらいたい。

○齋藤芳 地域振興専門員 歴史公園の冬のイルミネーションが良かったという声が聞こえ、大変喜んでおります。イルミネーションの今後の計画は、3か年計画であります。昨年度、1年目は藤ロード側のトンネルのところ、今年、2年目は築山の下にあるカーブしているトンネルへのイルミネーションで、3年目には大藤棚への設置を計画しているところです。最後の年には、藤の花も見ごろになるのだろうというところで、ライトアップも計画しております。それにより藤の花が咲く季節の魅力、冬のイルミネーションと、異なる季節で計画しているところです。年間通して夜になると明るくというのは、イメージ的にはいいのかと思いますが、今後考えていければと思います。

訪問客ということですが、観光施設ではあります。観光客入数というのは抑えてないのが正直なところではございます。確かに皆さん、人をなかなか見かけないというお声を聞きますが、お昼休みになると、周辺の施設の方などが歩いたりくつろいでいたり、朝晩、犬の散歩にきていらっしゃる方などは定期的に利用していただいております。先日、花の美化活動等をした時には、見かけた子供さんたちに「よく遊んでいるの。」と声をかけたら、「よく遊んでいるよ。」と答えてくれましたので、なかなか見えにくい状態ではあります。それぞれに地域に方たちが楽しんくれている状況もあるようでした。

○菅原きよ 委員 保育園の送迎の時によく通るのですけれども、やはり人は見かけません。公民館活動で夜、帰る時は、「イルミネーションきれいだ。」と見た記憶はありますけれども、あそこに散歩に行った方が休むベンチとかを置くことはできないでしょうか。

藤島地域は、鶴岡市全体の中でどのくらいの高齢化率かはわかりませんが、たぶん65歳以上の人口はかなりの数を占めると思います。そういう人たちに元気で長生き、藤島地域で過ごすこと、元気でいる寿命というのは、男性で71歳、女性で75歳、藤島はどうなのかわかりませんが、新聞には載っていました。そしたら、やはり家から外に出る動線をどれだけたくさん作れるかということが一つの課題になると思うのです。そういう意味で歴史公園は魅力ある一つだけれども、散歩しても腰かけるところがないというので、出来ればベンチというのは無理でしょうか。

○菅原司 総務企画課長 都市公園という形で整備させて頂いて、真ん中に「東屋」がございいますが、その他に2か所お休みいただけるベンチがあります。先進地では藤棚の下に座れる場所を整備したいといったような事もあるようでしたので、そういったところも、公園の魅力アップとして今後はどういったものが必要かということを検討していきたいと思っております。今年の藤の花祭りで「スイーツウォーク」とか、なるべく地域内の藤棚は勿論、周遊して頂けるルートにさせていただいていたところではあります、なお検討していきたいと思っております。

○石川均 委員 藤島地域の主要事業というところで立派にのっておりますし、今、鶴岡市も合併したわけで、この地域振興懇談会が地域の活性化を図ることでの最高の機関だと私は思っております。この間、小鷹栄一さんの叙勲祝賀会がありまして、町長の実績等が出ていましたが、その頃は町長を中心に、何か目標を持ちながらやっていたような気がします。合併して藤島地域には支所長がトップではありますが、職員ですので、私の印象では、そういったことは難しいといった印象がございします。

藤島歴史公園の活性化ということですが、花が咲いている時は人が集まるわけですが、花が咲いていない時はなかなか人が来ない。名称が、なぜ歴史公園というかと考えてみますと、文化記念館とか役場とか含めて藤公園でなく歴史公園であります。それから藤島は、農業の町だと言われておりますので、いろいろ関連づけて、例えば「米の博物館」とか組み合わせたらどうかと思っております。また鶴岡市が「食文化創造都市」になった訳ですので、それに対して「農業の町藤島」でどのようなことが出来るかということで庄農の話もでていますし、前は「つや姫会」でつや姫を扱う食品とか、つや姫に関連したスイーツの開発とかをいろいろやってきました。そういうことも必要ではないのかと思います。町内会としては、公共交通、高齢化に対してデマンドタクシーとかそういうことも検討して地域の活性化を図っていこうと思って取り組んでおるところです。

町内会長としては、いつも自治振興会の会長と連携しながら事業をやっておりますが、本当はこの委員に活動センターの会長も入れて議論してもらえば良かったと思っております。

ます。

○上野隆一 会長 3人の方から歴史公園のお話しが生まれて、観光施設として作ったものがないというのは、どっかに欠陥があって機能していないということになる。これは作ったけれども人を何としても呼び集めようという思いが、役所にも民間も足りなかったのかもしれない。だとすれば、せつかく作ったものをなるべく人を来てもらおうような方を緊急に作って、今年は無理かと思しますので、来年からはこれくらい人を呼び集めましょうという目標を持って、それなりの事業を構築していくということをやらなければならないのではないかと思いますので、役所の方で前向きに検討してみてください。

○田中壽一 委員 私も歴史公園に対する思いは、大変大きい期待感があります。是非、藤の花が見ごろになるまで、東田川文化記念館を核にしながら、何かできないのかなと考えております。観光協会の総会では、石川均さんが言っていましたが、ここは「米の産地」というので、藤の花のイベントとコラボレーションできないのかなという意見もでています。是非歴史公園を核にして、会長さんが、言われたようなことをやっていただければありがたいと私からもお願いしたいと思っております。

○大井茂 委員 老人クラブでは、最近健康寿命を延ばして医療費をあまりかけないようにということで、体を動かすゲートボールとか体操とかやっております。それはそれとして、明るいまちづくりへの応援ということで、私たちは何ができるのかと考えてみたんですけども、孫を習い事に連れていったり、塾に送り迎えしたり、一生懸命頑張っている老人クラブの方もいます。それも一つ、地域・家庭に貢献して応援しているのではないかと考えております。歴史公園の話がでましたが、私も3、4回ほど見せてもらいました。東屋、立派なトイレ、池もありました。そこで、住民が集まっての利用できる方法を考えてみました。井戸水も出るようなので堀を子供たちから自由に釣堀みたいに釣りに来てもらって、遊んでもらえればどうなるかなということを考えてみました。それから、東屋やトイレの施設もあるので、ブロックやベンチを置いて町内会の方々が芋煮会に利用できないものかと思いました。

○小林正雄 産業建設課長 歴史公園の釣堀などの利用ということですけども、歴史公園が出来て2年目ということで、皆さんから利用して頂きたいという思いは皆さんと同じですけども、釣堀までは、今のところ考えておりません。池に関しては、因幡堰の水を利用させてもらっておりますが、池に藻が発生しておりまして、たぶん生き物が生息するには困難な状況もございます。今、藻がなくなるような対策を検討しているところでございますが、いずれにしても歴史公園、人がいろいろと利用、活用して頂けるような形で考えていきたいと思っております。

○大井茂 委員 もう一つ、できるかどうかお聞きしたいと思います。歴史公園の駐車場ですが、東田川文化記念館の脇にあるので、地元の自分も「車、どこに駐車すればいいかわからない。」と思ったので、他所から来た人はなお分からないのではないかと思います。このまま、あそこのままで良いのかどうか。今すぐには出来ないと思いますが、メイン道路の脇に、立ち寄りやすい駐車場の設置を検討していただけないものか、お聞きしたいと思います。

○菅原司 総務企画課長 公園自体の工事は、いったん現状で完成を見たという状況でございます。確かに、駐車場はわかりにくいということはあろうかと思いますが、利用して頂くためには、そちらの方に誘導する方策等は、何かしらあろうかと思いますが。今新たに駐車場を作るとかいうことは出来かねる状況でございますので、ご理解頂ければと思います。

○叶野明美 支所長 私たちは、歴史公園がほとんど出来てから、来たメンバーですから、「本当にベンチも無くて、ずっと立っていなければならないのか。ここに敷物を敷いて良いのかも、あまりにきれいすぎて使い悪いかも」という話をした時に、もともとのコンセプトが日本庭園のため、子供の遊び道具もない、余計なものがない、庭園風に造るように最初の時のワークショップで決まったのだと引き継ぎを受けました。本当に、道路以外、芝生のところにも入っていいのか分らなかったのですが、あそこで私も芋煮やビアガーデン等したいなと思っておりまして、芝生公園みたいに焼肉でもできないのかなという話もありました。同じようなことでライオンズクラブからもビアガーデンをしたいということでこちらに問い合わせがきて、いま火気が使えるかどうか問い合わせ中でございます。そのような使い方をすれば、イベント的に楽しくなるのかなと思っております。お堀は、今、藻があって、何とかならないのかなと頭を悩ましているところです。一応、お金をかけて出来たということで、壊れたときの修繕などは構いませんけれども、大規模な改修は難しいかなと思っております。でも悪いところは工夫しながら、より分かりやすい駐車場の看板等つけたいと思いますので、ご理解の程よろしく願いいたします。

○石川均 委員 どうして歴史公園なのか、藤公園でないのか、藤にこだわらなくていいのであれば、あの辺一帯が歴史公園であるという看板とか、一帯になっている公園だというイメージを作っていくべきだ。

○高山千代子 委員 歴史公園ということで、あそこには東田川の電気組合があったということと、電気の歴史も大事なんではないかと思います。鉄塔は気になりますが、あれは大きな役割をしてきたわけなので、それを含めた周知と、駐車場も「あちらに駐車場あります。」というちょっと大きめの看板を、どこかに立てるというのであれば予算がそんなにかからず出来るのではないかと思います。歴史公園なら、藤島の歴史、お米の歴史、電気の歴史、そういうもの全部を含めて藤島をPRしていけばいいのではないかと思います。電

気も忘れずに、あの鉄塔を生かすようにしていただきたいと思います。

(3) 藤島地域振興計画及び進捗状況について

－ 資料3により説明 － 総務企画課 地域振興専門員 齋藤芳

○上野隆一 会長 今日には庄内農業高等学校の青柳校長から、おいで頂いておりますけれど、実は庄内農業高等学校がたいへんな時期を迎えています。今年から学級は減ってもなかなか入学生は増えていかないといった事もあるようです。その辺の事情、近々の課題も含めて庄農の状況について、この辺で地域から応援願いたいというようなところもアピールして下さい。

○青柳晴雄 庄内農業高等学校校長 たまたま今日は、中学校の一日体験入学ということで、この会議の前ギリギリまで、中学生と保護者の方に説明して参りました。会長からあった通り、農業の関連である「食料生産科」と「食品科学科」の二つの学科になりました。簡単にいえば、農業の技術や経営を学ぶ学科と食品化学科の方を中心に農産物を加工したり、利用したりすることで生活をいかに豊かにするかというようなことを学ぶ学科の二つということにして、新しい学科になったようです。私が4月に来まして、話を聞いたところ、残念ながら「たぶんいっぱい来るだろな」と思って食品化学科を作ったのですが、食品化学科のほうが少ないということでした。「なぜだろうか。」という話のなかで、まず一つ大きな問題としてPRが足りなかったということがあると思います。

学校の方では、一生懸命PRしていると思っているのですが、思った以上に地域の方、特に中学生や中学生の保護者の方には、庄内農業高等学校でどんなことをやっているのかというのがあまりわからない。あまりどころかほとんど分からないというところがありまして、ぜひPRを早くしたい、積極的にしないといけないのではないかという流れがありました。どんな勉強をするのかも分からないし、その後どういう就職があるのかもよく分からないという中で、一生懸命やっているんだとはいうものの、それは非常に足りない。

「庄農うどん」に関しても、食べて頂いた方に関しては大変おいしいと言ってくさるのですが、食べていない方も多いとご意見も伺っているところです。

今、2クラス80人定員に今年は53名入りました。80分の53です。大変少ないんです。これが続くようであると1クラスになっていくことになる、1クラスになると分校になるというのが県の決まりでございます。分校になると庄内農業の名前が無くなります。

それでは困るということで、4月から先生方と一緒にプロジェクトを立ち上げて、いろいろなことをやってまいりました。先生方の意見も集約しながら、どうしなければいけないかということで、まず一つやったのは「庄農通信」です。昨年度までも作ってはいたのですが、年間4回ということで、「なんで、4回なの。」といったら、「予算が無いから。」という話でした。予算が無くては何かしなくてはいけないのではないかとということで、同窓会にもお願いして予算も頂きながら、その他の取組を先生方と考えると、PRも頑張ってきた

ところ です。

「庄農うどん」に関しても、いろいろなご意見を伺いながら、なかなか今後、たくさんは作れないという話があります。「それ、なんでなんだろう。」という話になったのですが、授業の中で作っているものですから、年間ずっと食堂ばかりさせる訳にはいかないといいことで、うどんを作った時、実習になった時に販売するという事になったのです。それでも、ぜひ藤島の活性化に向けて、お祭りとかあるいは、出来るところからやってみようという話になって、昨年度と比べて「ふれあい広場」の方に出す回数を何回か増やした経過があります。まだまだ少ない状況でございまして、これからどうすべきか、といった時に、売っても、売り上げが学校に入ってくる訳ではなくて、すべて県に行く仕組みのため、いくら売っても、働いた人に還元できない状況です。それを作った生徒や職員には還元できない訳ですので、労力が掛かるけど全然お金の見入りが無いところでも、困る訳です。部活動だと毎日、ある程度出来るのではないかと、あるいは、定期的にとか、期間を決めてとかで、これまで以上には、できるのではないかと話をしております。

それを PR するなかで「庄農ではこんなことをやっているよ。」というところを中学校とか保護者の方にも知っていただく。「うどん」だけでもだめですので、先ほどあった「シフォンケーキ」もありましたし、次から次へと新しいものを考えていながら、先ほどコラボの話もございましたが、できればもう少し大きなところ、例えば「コンビニ」など、こちらのほうで毎日作るのが難しいとすれば、そういうことをやって頂けると「コラボ」ということも考えなきゃいけないのではないかといいことで、今、いろいろやっているところでございます。

この連携事業に書いてあるようなところをさせて頂いているのですが、他の学校ではなかなかやっていない。藤島地区にある庄内農業高等学校だからこそこういうことがやれている訳でして、これをもっともっと PR したい。同じことを他の市内の普通校の総合学科あたりがやったりすると、物珍しいのかポーンと書かれてニュースになったりする。私たちは毎年やって、大会にも出でて発表もしているのですが、この辺のところは、PR べたというのか、足りないというところを非常に私は感じました。

そういうことも含めて、もうひとついえば、大学さんとの連携もございまして、大学生の知識を借りながら、大学生と高校生が一緒になってワークショップの中でいろいろ考えていくような事業を展開しながら、課題に対してどのような手立てが必要かというところを本気で考えて、本気で取り組んでいく。答えはなかなか見つからないのですけれども、見つからない答えをみんなで考えていくことが高校生としての勉強、学びだということが、今、言われています。そういうことを重視していきたいと思っております。

今、大変な状況ですが、先ほどもありましたが、私も中学生に「私の学校に絶対入ってきてください。」とは言えません。「今日説明したことをよく考えて、将来進路を考えて下さい。」と「本校ではこうこう、こういう事をやっています。」と話をしてまいりました。他の学校の動きをみると、例えば鶴南に来年から探究科というのが出来ます。探究科というのは何かというと、今までは教科書に書いてあることをしっかり覚えて、テストの時に

ポーンと出して書けば、100点になる訳です。「あなた頭がいい。成績がいい。」と言われていたんですけども、いやこれは本当の学力じゃないと、せっかく覚えたこととか勉強したことが、テストで書くだけではなくて、それをいかに、こう、例えば、ふじの歴史公園をいかに活性化するか、とか庄農の人数をいっぱいにするにはどうするかとか、地域を活性化するにはどうするかとか、実際に使わないとほんとうの勉強ではないというところの中で、「探究」ということが出てきています。知識だけではだめだし、知っているだけではだめですと。いかに地域の課題を見つけて、先ほどの公園をいかに活性化させるかを若い人達が考えていくことによって、地元を何とかしていきたい、地元に戻って何かしたいということをひとつ狙いにしているんだと思います。そういう事も含めて、うちの学校では、前からやらせて頂いていたという自負もございますし、また「新しい価値観」というか、教育に対する価値観というのが変わりつつある。農業高校には追い風なのですが、追い風になる前に子供たちが少なくなるのは困りますので、我々一生懸命頑張っているところでございます。

色々なところで、「庄農通信」も配っておりますので、いろいろとまたこうしたらいいのではないとか言われますが、すぐにはなかなかできない難しいこともあります、予算のこともあります、それだけやっていたらいいというのでもなく、きちんと勉強させないと単位も認められない、そういうこともありまして、すぐにはできないのですが、ご意見を伺いながらやれるところから取り組んでいながら、PRをしていくことを考えます。

一つうれしかったのは、今回、庄農の卒業生で私の教え子に「なんとか、ならないか。」と相談したら、先生と生徒と一緒に紹介DVDを作るからと言って、作ってきてくれました。今日の説明会で流したのですが、半月ぐらいで作ってきてくれて、若い人は「すごいな」と思うんですけども、ついでに「著作権の問題があるんだ。」と言ってBGMを自分たちで歌まで作って、「庄農大好き」とか「庄農サイコー」とかそんな話でしたがそれだけでも「すごいなあ」と思っておりました。

だから、そういう力を、うまく使うような形にしていけないと思いました。中身はともかく、やはり気持ちを起こさせることが、非常に重要なのだろうということで、私も勉強させて頂きました。

説明とお願いとかがごっちゃになってしまいましたが、このような状況でございます。ひとつよろしく願いいたします。

○上野隆一 会長 庄農も大変な時期を迎えているようでして、皆さんからご支援の程、お願いしたいと思います。

(4) 地域課題、地域活性化全般に関する事項について

○上野隆一 会長 時間がなく、次の事項は入りきらないので、残り10分を自由に皆さんから、ご意見を頂戴したいと思います。

○富樫達喜 副会長 庄農のことに。先日実は私、北海道の美唄という札幌から旭川のちょうど中間地点の純農村地帯に行ってきました。6、7年前に行った時と今年、つい最近行った時と比較してみると、とんでもない変化になっていました。というのは、どんどん、どんどん離農する農家が増えていました。それから、農業をやっている地域から離れていて、便利のいい美唄の真ん中に、子供のために、駅や学校の近くに土地を求めてそこに家を建てて、通い農業をやっているという現実がありました。その時ふと頭に浮かんだのは、いま庄農の生徒、農家の人よりむしろ非農家の人の方が多いという話を聞いたことが頭に浮かびました。庄内にとって、この地域にとって、今までみたいに農家の後継者を庄農に集めるんだということでは、これから庄内が成り立っていかないだろうと、むしろ非農家で農家に関係のない人でも、どんどん、どんどん集まってきている現実を大事に考えていく必要があるのかなと。むしろ現実を逆に捉えて、悲観的にとらえないでいくのも、また一つの方法なのかな、と実はそんな思いもしましたので紹介します。

○半澤正昭 委員 先程の地域主要事業の2番目に「藤島大根」という言葉が出てきました。これは前の「豊栄大根」の種子を毎年改良しながら、「本当の豊栄大根って、何だろう」ということで、何年かかけて種子をとってきたものと「藤島大根」と別ものなのか確認させて頂きたいと思います。それから藤島大根が庄農さんの事業のなかで、品種改良された或いは元の在来作物として、栽培してどのような活用しているのか、或いはしようとしているのか。在来作物という言葉が今どんどん使われている訳で、山大の農学部にも有名な先生がいらっしゃいます。それを実際、商品化しているのかどうかというのが一点、二点目が、「すいおう」が今回大きな話題になっていますけれども、庄農さんでうどんを作っている、お話を伺いながら思い付きなのですが「もろへいや」を練りこんだ「もろへいやうどん」があるように、「すいおう」のうどんなんか、どうなのかとか思いましたが、ありますか。結局それが知られていないということですね。

それからお菓子屋さん。庄農さんでも開発しているけれども藤島にも何軒かの、お菓子屋さんがあって、売るだけでなく自分のところで作っています。そういったところに「すいおう」を入れたものを開発してもらおう。そして、それを「ふじの花まつり」のイベントの中で紹介してもらおうって、売りたいものが売れる訳でもないだろうし、リサーチも兼ねたようなことをしていく必要があるのかなと思います。まず、先ほどの「すいおう」を巡る話の中で感じました。単にお金を出して「開発」「開発」というだけではなくて、それを商品化出来るのかできないのかまでいかないと、活性化には繋がっていかないのではないかと、そんな思いで聞いていました。

あと、私の守備範囲の中なのですが、今日いただいた資料見みますと、就業者数が第一次産業よりも第三次産業が倍以上になっているということは、単に農業従事者が少なくなったというだけじゃなくて、サービス産業に従事する人が増えているということは、今、民生委員として一人暮らしの高齢者だとか高齢者だけの世帯といった高齢者が、即、災害弱者であったり、要援護者という捉え方をしているし、高齢者だけというところに視

点がいますが、実は、若夫婦がいるけれども日中はひよっとすると高齢者しかいない、或いは休日だけれども若夫婦はいないとか、夜間もないと、いわゆる24時間交代勤務するとかという三次産業が増えているということは、そういった世帯が増えているという事なので、要援護者、或いは災害弱者といった視点で考えてみた場合と、家族がいるから、安心できるんだという視点はもう消し去るべき時代ではないのかなと思っています。ものすごく範囲は広がっていくけれども、いざという時の地域の隣組が「どこどこに、どんなおじいちゃんおばあちゃんがいる」という手助けが、実は今の状態の中では抜けてしまっています。これからの時代は、家族はいるけれどもその一人しかいないという時間帯も実はあるんだという、そういった認識で考えていく、いろんな計画を立てていく必要があるのかなと、そんな思いで、こういった数字を見ております。具体的にどうすればいいかというのは、かなり難しい問題があるかと思えます。それを「情報の共有化」という言葉を簡単に使いますが現実的に民生委員と地域の人たちと行政とが共有できるかといったら、守秘義務の問題、個人情報保護の問題など、必ず壁が出てきます。その辺をどうしてぶち破ることが出来るのかといった事も、行政の方で「ここまでは情報公開出来ないよ。」とか「ここから出来るよ。」という話だけではなくて、もっと違う視点で考えてもらいたいなと思っています。

○上野隆一 会長 この場で答えるには難しいような質問なので、まず半澤さんご意見は記録に留めておいて、議事録に記載して頂くということで、次回にその検討をいただきますよう。

最後は、時間もあまりないので、今日まだ発言されてない阿部さん、今日ここにはじめて来て、どんな感想をもったか、もしくは言いたかったことがあれば最後にお話しして下さい。

○阿部啓郎 委員 回ってくるのかなと、「ドキドキ」しながら考えながらいたのですが、「藤の花」に関してですけれど、一応藤島町、藤の花ということで、その公園にもりっぱな設備が出来ました。道路には「ケヤキ」とか中学校の前は「いちょう」とか植えてあるのですがそういうところにも「藤の花の棚」みたいなものを作られないのだろうかという気がしています。友人が中学校近くに住んでいるんですが「ケヤキ」だと「ケヤキの葉っぱ」が落ちてきて、「掃除しなければならなくて大変だ」と言っていたので、そんなことも考えると、藤の花をそこにバーッと植えたらきれいになるのではないかな、という気がしました。

○上野隆一 会長 これは、ふじの里のイメージを育んで行きましょう、という話ですね。それでは、最期に事務局が準備してくれたミニチュア映像を見て終わりにしましょう。

(ミニチュア映像視聴)

○菅原きよ 委員 すみません時間のないところ、いまビデオにでました「四季の里楽々」というのは、いま危機の状態です。あそこは国道沿いの地の利のとてもいいところです。本日皆さんの話を聞いて思ったのは、あそこに庄農が今取り組んでいることとか、庄農のでっかい看板を四角じゃなくて丸くてもいいし、ぜひ、楽々で庄農をPRできたらいいなと思います。

それから、わら工芸の人たちはもう高齢化しています。藤島で何があるかという、田んぼです。そうすると、それから出てくる「わら」。その「わら」を使ったいろんなことをしている人達は、高齢化で大変な状態です。地の利の良い「楽々」を使って、定期的に「わらの学校」とかいろんなことを考えていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

6. 閉 会（菅原総務企画課長）